

## 2. 火山の概況 (平成 15 年 9 月 18 日 ~ 平成 15 年 9 月 24 日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。富士山ではごく弱い噴気が確認された。三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発であった。桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島では噴火が発生した。また、伊豆大島では震度 1 を観測する地震が発生した(期間外)。

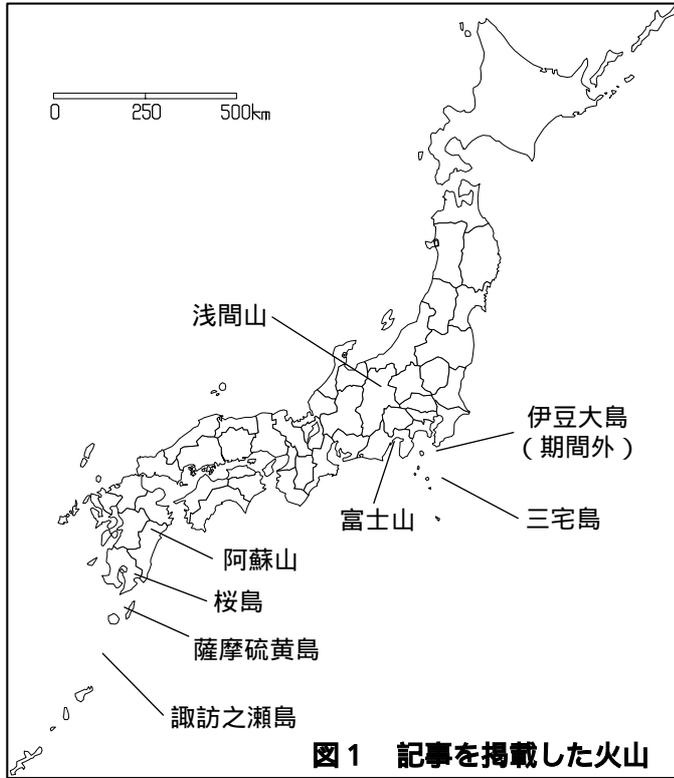


表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山	富士山	伊豆大島	三宅島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
40	9/25-10/ 1	■	■	■	■	■	■	■	■
39	9/18- 9/24								
38	9/11- 9/17								
37	9/ 4- 9/10								
36	8/28- 9/ 3								
35	8/21- 8/27								

**注 1 記号の意味**

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

**注 2** 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

### 浅間山 [火山ガス・地震・微動・熱]

18 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は日量 290~570 トンで、前回の観測(7 月 15 日、300~500 トン)同様、4 月以前の 1,000 トンを超えるような状態にはなかった(図 2)。

6 月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間もやや多い状態が継続しており、1 日当たり 39~76 回観測された。また、前期間に 16 回とやや多く観測された振幅の小さい微動は 23 日に 1 回発生した。

噴煙の状況は山頂部が雲に覆われて観測できない日が多かったが、19 日には白色噴煙が火口縁上 200 m まで上がっているのが、山麓の監視カメラで観測された。

群馬県林務部設置の赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測された。

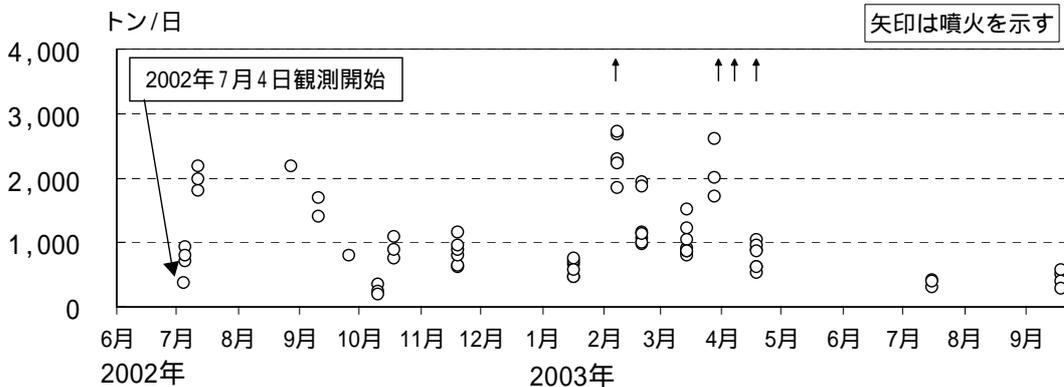


図 2 浅間山 二酸化硫黄放出量の推移 (2002 年 7 月 4 日 ~ 2003 年 9 月 18 日)

## 富士山 [噴気]

東北東斜面の標高約 1,530mの林道脇で、4か所の地面の陥没（最も大きいもので 15m × 10m × 20～30cm）が確認された。また、この内 1か所の地面の陥没内に 2か所、陥没の周辺に 1か所の計 3か所に穴があり、そこからごく弱い噴気が出ているのが確認された。噴気の温度は最高で約 40℃、硫化水素等の顕著な火山ガスは検出されなかった。

なお、富士山周辺に設置してある地震計や傾斜計等には特に異常を示すデータは観測されておらず、これらの陥没や噴気は噴火活動と直接関係するものではないと考えられる。

## 伊豆大島 [地震]（期間外）

25日 07時 38分頃、伊豆大島島内を震源とするM(マグニチュード)2.0(速報値)の地震が発生し、伊豆大島町元町で震度 1を観測した。伊豆大島周辺を震源とする地震により島内で震度 1以上を観測したのは 2002年 7月 20日以来である。なお、この地震の後、地震活動は活発でなく、その他の観測データにも異常な変化はみられず、火山活動には特段の変化はなかった。

## 三宅島 [噴煙]

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、最高で火口縁上 1,000mまで上がった。

振幅の小さいやや低周波の地震は、1日当たり 7～23回と落ち着いた状態で推移した。

GPSによる地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は収まっている。

## 阿蘇山 [熱・微動・地震]

中岳第一火口内の状況は、19日に実施した現地観測によると、湯だまりは乳緑色で灰色の浮遊物があり、中央部で噴湯現象が継続している。湯量は前期間と同様 8割であったが減少傾向が続いている。湯だまり表面温度は 77℃と高い状態が続いている(前期間の最高は 78℃)。南側の火口壁の温度も 356℃と依然高い状態であった。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、最高は火口縁上 400mであった(前期間は 600m)。

孤立型微動は、前期間と比べて減少したが、21日には 413回発生するなど依然多い状態が続いている。今期間の合計は 2,337回(前期間は 3,522回)であった。B型地震は 310回と前期間(440回)よりも減少した。

A型地震の回数、地殻変動等その他の観測データには特に変化はなかった。

## 桜島 [爆発・空振・噴煙・降灰]

24日に噴火が 2回発生し、いずれも爆発であった(前期間は爆発 1回)。2回の爆発に伴い鹿児島地方気象台(南岳の西南西約 11km)では、体感空振(中<sup>1)</sup> 1回、小<sup>2)</sup> 1回)、爆発音(いずれも小<sup>3)</sup>)が観測された。噴石は確認されなかった。

今期間の噴煙の最高は、24日の爆発に伴う火口縁上 2,200m(灰白色)であった。

鹿児島地方気象台では、23日、24日にごく微量(0.5g/m<sup>2</sup>)の降灰を観測した(前期間の降灰量は 1g/m<sup>2</sup>)。

- 1) 体感空振(中)：誰にでも感じる程度。
- 2) 体感空振(小)：注意深くしていると感じる程度。
- 3) 爆発音(小)：注意深くしていると聞こえる程度。

## 薩摩硫黄島 [微動・噴煙・降灰]

20日以降、ほぼ連続的に微動を観測し、火山活動は活発な状態で推移した。

監視カメラによる観測では、19日に灰白色の噴煙が高さ 800mまで、22日に灰白色の噴煙が高さ 500

mまで上がった。鹿児島中央警察署硫黄島駐在所によると、21日、22日に集落（硫黄岳の西約3km）で降灰が確認された。

#### 諏訪之瀬島 [微動・噴煙・降灰]

ほぼ全期間にわたり連続的に微動を観測し、火山活動は活発な状態で推移した。

監視カメラによる観測では、19日に灰白色の噴煙が高さ300mまで上がった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、19日、22日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰を確認した。

火山性地震は少ない状態であった。

**表2 火山情報発表状況**

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第518号 (1日2回発表)	18日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第531号	24日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第18号	19日 14:00	孤立型微動、火山性地震が引き続き多い状態。